



医局だより

名古屋大学 乳腺・内分泌外科

高野 悠子

皆様こんにちは。名古屋大学医学部 乳腺・内分泌外科です。私たちの医局についてご紹介させていただきます。

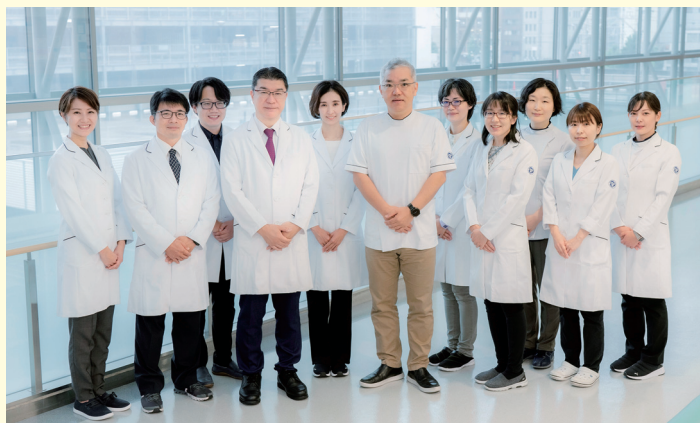
名古屋大学医学部では、古くより第一外科・第二外科ユニットが存在し、近年では旧第一外科の乳腺診療グループと旧第二外科の内分泌研究室グループが共同して診療にあたっております。その後、臓器別講座の再編成の流れとして、2021年10月より新たに乳腺・内分泌外科学講座が開設され、その初代教授として増田慎三教授が就任されました。

現在は常勤医師6名（内、1名兼任）、大学院生8名で乳腺および内分泌疾患の診療・研究・教育を行っています。

基本的にチームでの診療を行っていますので、毎週開催される症例検討会、術式検討会、術後治療検討会、病棟症例検討会の他に形成外科(月1)、病理・放射線(月1)、HBOCカンファレンス(隔月)等、放射線科や形成外科、病理部、遺伝カウンセラーなど他部門の各専門家や専門チームと定期的に検討会を実施しています。各スタッフと密に連携を取ることによって症例ごとに細やかな治療方針決定を心がけ、一人一人の患者さんに合わせた医療を提供しています。現在は企業治験や多施設共同臨床試験にも多く参加させていただき、医局内での基礎及び臨床研究も実施しております。

現在名古屋大学に在籍する14名の医師のうち、9名が女性であり、女性医師の比率は年々高くなっています。すべてのスタッフにとって働きやすい環境づくりを目指し、カンファレンスの短時間・分散化、勤務内容の分担化、オンラインシステムを用いた情報の共有体制の構築など、よりよい働き方を模索し、常に業務体制の改善を重ねています。

当大学では愛知県、岐阜県、三重県、静岡県にわたり50以上の関連病院があります。近年では乳癌患者の増加と治療の多様化により、各施設で乳



腺診療を担う医師が相談、情報共有できる場が少ないことが課題と考えています。そこで我々は、2022年より Nagoya University Breast Conference: NUBC の取り組み

を開始しました。具体的には、Zoomを用いた定期的オンラインカンファレンスの実施、SNSのひとつであるSLACKを用いた症例相談の場や新規の治療や臨床試験の情報を提供しています。今後もICTを活用した地域医療の貢献および若手育成のための取り組みを行ってまいります。

これからも皆様とともに患者さんのために乳癌の診療・研究や若手や学生の教育に尽力してまいります。引き続き温かいご支援のほどよろしくお願い申し上げます。